

## 第17回ウイルス学キャンプ in 湯河原 開催のご案内

主催：ウイルス学キャンプ実行委員会

共催：日本ウイルス学会

文科省科研費新学術領域「ネオウイルス学」研究班

日本学術振興会 研究拠点形成事業「時空間ウイルス学の国際拠点形成」

はじめに：「ウイルス学キャンプ」をよく知らない方は[こちら](#)

日時：2020年6月29日（月）12:30 ～ 6月30日（火）12:00 まで（予定）

場所：ニューウェルシティ湯河原

静岡県熱海市泉 107

TEL：0465-63-3721

<http://www.welcity-yugawara.co.jp/>

湯河原駅（JR 東海道本線）下車、バス 2 番乗り場

奥湯河原行・不動滝行 約 7 分、「理想郷」下車、徒歩 1 分

対象：主に若手研究者（大学院生、ポスドク、大学学部生、常勤・非常勤研究者など）。

非ウイルス学会員の参加も歓迎します。研究を真剣に行っている・行いたい方。

### おおまかなプログラム：

< 6月29日（月） >

\*招待講演

～ 新進気鋭の研究者から最新の研究のお話 ～

1. 演題：「Epstein-Barr ウイルスの多彩な増殖戦略を支持する溶解感染関連遺伝子」

名古屋大学大学院 医学系研究科 ウイルス学/JST さきがけ 佐藤 好隆 先生

[要旨] Epstein-Barr ウイルス(EBV)は、 $\gamma$ ヘルペスウイルス亜科に属する DNA ウイルスで、成人の 90%以上が既感染である。EBV は潜伏感染と溶解感染という 2 つの生活環を持ち、リンパ種や上咽頭癌などの原因にもなる。EBV は感染 B 細胞を不死化するが、ウイルス自身は潜伏感染状態となるため、潜伏感染関連遺伝子が不死化や腫瘍形成に重要であると考えられてきた。しかし、溶解感染関連遺伝子もこれらのプロセスに深く関わる事が示唆されはじめています。

本講演では、溶解感染関連遺伝子の働きについて我々の知見を中心に紹介する。

## 2. 演題：「麻疹ウイルスの特性とウイルスベクターへの応用」

国立感染症研究所 田原 舞乃 先生

[要旨] 再生医療、癌治療、そして遺伝子治療などの分野においてウイルスベクターは、不可欠な役割を果たしている。我々は麻疹ウイルスゲノムを改変することにより、広域な細胞に初期化因子を導入可能な非伝播型 iPS 作製麻疹ウイルスベクターを開発した。また、ポリメラーゼ遺伝子を改変し、光により任意の場所・時間だけで遺伝子発現する光制御ウイルスを作成した。これらのウイルスベクターについて紹介する。

募集中です

### \*口頭発表

～ 希望者から数名選出させていただきます ～

募集中です

### \*ポスター発表

～ 口頭発表以外の一般参加者は基本的に全員ポスター発表をお願いします。  
発表できるデータがない方は現在進行中あるいは今後の研究計画など ～

### \*夕食、お風呂、懇親会、自由討論

## < 6月30日(火) >

### \*若手研究者のためのキャリアパス講座

～ 研究者キャリアを多面的に考える ～

## 3. 演題：「脱アミノ化酵素 APOBEC3 ファミリータンパク質と HIV-1 の攻防」

熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター 分子ウイルス・遺伝学分野  
池田 輝政 先生

[要旨] ヒト免疫不全ウイルス (HIV-1) が個体で感染を成立させるためには、標的細胞で発現している様々な宿主防御因子を乗り越えなければならない。その防御因子の1つが、脱アミノ化酵素 APOBEC3 (A3) ファミリータンパク質である。HIV-1 は、Vif によって、A3 ファミリータンパク質を不活性化することができる。しかし、実際に HIV-1 感染者のプロウイルス上では、A3 ファミリータンパク質による G-to-A 変異が観察されることから、生体内で Vif は A3 ファミリータンパク質を完全に不活性化していないと考えられる。私は、これまでに宿主 (A3 ファミリータンパク質) とウイルスの攻防・進化に関する分子メカニズムを明らかにしてきた。今回は、これらの知見と、私の留学経験も踏まえて紹介したい。

4. 演題:「あなたはどのような研究者になりたいですか?~人生をレパトア解析する~」  
Repertoire Genesis 株式会社 北浦 一孝 先生

[要旨] 抽象的な演題で興醒めする方もいるかもしれないが、私はこれに近い言葉を博士課程の学位審査時に主査から投げかけられた。ポスドクを経て、私が当社を設立し現在に至るまで、外的要因もさることながら、自身の年齢、性格、スキル、資格、学歴、業績、幸運と併せて、最終的には自身の強い希望と選択によるものが大きかったと思う。研究者というニッチの業種の中で、あなたの未来にはどのような人生が広がり、可能性を持つのかについて、この場を使って人生のレパトア解析を試みたい。

\*いまだから聞けるウイルス学講座

～ ウイルス研究の歴史、流れ、転換点、ご自身が研究をはじめたきっかけなど、権威の先生がおおいに語ります ～

5. 演題:「海洋の ワルイウイルス ヨイウイルス」  
高知大学 海洋生命科学コース 長崎 慶三 先生

[要旨] 水圏環境中には膨大量のウイルス粒子が存在する。ウイルス粒子自体は、静的な状態にあり、実際には宿主細胞に感染し発現している状態こそがウイルスの機能しているフェーズといえる。ウイルスはそれぞれの生態学的機能を持ち、水圏生態系の維持・変動に関与している。演者らは、微細藻類を中心とした微小プランクトンに感染するウイルスを対象とした研究に 20 年間に亘り携わってきた。今回のセミナーでは、藻類ウイルスを巡る現象論と機構論について概説する。

詳細なプログラムは後日、参加者に直接お知らせします。

**申込に関して:**

定員: 計 50 名 (先着順で、定員になり次第締切らせていただきます。)

費用: 未定 (決定次第、お知らせいたします。 ちなみに昨年は、

参加費 3,000 円 + 宿泊費 9,000 円 + 懇親会費 1,000 円 でした。)

参加申込方法: 以下の書式に沿って、電子メールで下記 (virology-camp\*nih.go.jp : \* を@に変更して送信してください) までご連絡下さい。

締切：2020年4月20日

申込宛先、問い合わせ：

ウイルス学キャンプ in 湯河原 事務局

国立感染症研究所ウイルス第二部 渡士幸一

e-mail: virology-camp\*nih.go.jp

(\*を@に変更して送信してください)

-----  
第17回 ウイルス学キャンプ in 湯河原 参加申込書

氏名：(フリガナもお願いします)

性別：(部屋割りを決めるために記入お願いします)

所属：

職位：(学生、大学院生の場合は学年も)

所属施設住所：

所属施設電話番号：

電子メールアドレス：

発表演題名：

希望発表形式：(口頭、ポスターのいずれか)

口頭発表希望の場合のみ、要旨(200字程度)：

-----